

「身近な消費生活と環境」の授業展開例 －「家庭生活と消費」に関する学習－

- 1 題材名「消費生活について考え、適切な消費行動ができるようにしよう！」
- 2 題材について
 - 持続可能な社会の構築など社会の変化に対応して、「A家族・家庭と子どもの成長」「B食生活と自立」「C衣生活・住生活と自立」「D身近な消費生活と環境」として設置されている。
 - 小学校家庭科の内容「D身近な消費生活と環境」を基盤とし、中学生の身近な消費行動（例 ゲーム、漫画、スポーツ用品等）と関連させる。
 - A～Cの内容との関連を図り、体験を多く取り入れ実践的に学習させる。
 - 地域や学校の実態、生徒のプライバシーを考慮し、題材設定はモデル例を示すようにしてもよい。
- 3 題材の目標

消費や環境に関する実践的・体験的な学習活動を通して、消費生活と環境についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、消費者としての自覚を高め、身近な消費生活の視点から持続可能な社会を展望して、環境に配慮した生活を主体的に営むことができるようにする。
- 4 題材の指導計画（総時数 9 時間）
 - ・ 消費者の自覚をもとう ----- 3 時間（本時1/9時間）
 - ・ よりよい消費生活を目指そう ----- 2 時間
 - ・ 環境のことを考えた消費生活を目指そう ----- 4 時間

指導内容	学 習 活 動	実践的・体験的な学習活動例
自分や家族の消費生活	○ 自分の消費に使える金銭には限度があることに気づき、優先順位を考えて計画的な支出をおこなう。	○ 自分の1か月分の消費生活調査（支出内容や金額の把握）
消費者の基本的な権利や責任	○ 実際の消費生活と関連させて具体的に消費者の権利や責任について考えるとともに、消費者基本法の趣旨について理解する。 ○ 身近な消費者にかかわるトラブルを取り上げて、消費者の権利の回復や救済について考える。	○ 消費者トラブルについての寸劇やロールプレイング ○ 鹿児島県消費者センターや鹿児島市消費者センターの講師派遣や資料等の活用
販売方法	○ 店舗販売と無店舗販売の特徴を知り利点や問題点についてまとめる。	○ 販売者と消費者の立場に分かれてクラスで販売についての話し合い

生活に必要な物資・サービスの選択，購入及び活用	○ 本当に必要かどうかの判断が大切であることに気付く。 ○ 多くの情報から適切な情報を収集・整理して，物資・サービスの適切な選択ができる。 ○ 購入した物は，大切に活用し，廃棄まで考える。	○ 広告や商品の品質表示等の調査 ○ クラスで一番購入希望が多い商品について選択方法のシュミレーション
消費生活が環境に与える影響	○ 自分や家族の生活の仕方が身近な環境に与える影響について，具体的な事例を通して考える。 ○ 持続可能な社会のためには，環境に配慮した生活が大切であることに気付く。	○ 弁当の容器や過剰包装について外国の状況等を参考に調査，検討 ○ 日本の江戸時代の循環型社会と現代を比較，検討
環境に配慮した消費生活	○ 今後の生活を展望して，消費生活の在り方を工夫して実践できる。	○ 循環型社会を目指した生活の仕方の工夫と実践方法

5 展開例（本時 1 / 9 時間）

(1) 小題材「自分や家族の消費生活を振り返ろう」

(2) 本時の目標

自分や家族の消費に使える金銭には限りがあることや優先順位を考えた計画的な支出の必要性について気付き，消費者としての自覚を高めることができる。

(3) 準備するもの

自分の 1 か月分の消費生活調査（支出内容や金額の把握），ワークシート

(4) 本時の展開

学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点
1 本時のねらいを知る。 自分や家族の消費生活を振り返り，消費生活をよりよくする方法を考えよう。	5	○ 小学校家庭科で学習した内容を思い出させるとともに，中学校では消費者の基本的な権利や責任について理解することができるようにする。
2 自分の 1 週間の消費生活を振り返り，まとめる。（ワークシートと付箋に記入）	10	○ 自己の成長とともに，自分自身で消費行動をする機会が増え，取り扱う金額も増加していることに気付かせる。 ○ 家庭での実践課題として自分の 1 か月分の消費生活を記入させる。
3 まとめたことを発表する。 例 ・ ゲーム代 ・ 漫画代 ・ スポーツ用品代等	15	○ まとめたことを付箋に記入し，黒板に貼っていくことで，クラスの傾向を知らせる。（生徒のプライバシーには十分配慮する。）

		○ 内容や数の比較をして，消費行動が広範囲になっていること，消費者としての自覚をもつことの必要性に気付かせる。
4 よりよい消費生活について，自分ができることを話し合う。 例・ゲーム代等を減らす方法 (レンタル，中古製品の活用)	15	○ 中学生としてできることや，家族の一員として適切な消費行動をとる必要があることを考えさせる。 ○ 自分の夢を実現するためにはお金が必要であることを具体的な例をもとに知らせ，夢の実現のためには計画的な支出が大切であることに気付かせる。 (例 パティシエになるための費用等)
5 これからの消費生活に生かせることをまとめる。	5	○ 自分や家族の消費生活の課題を把握させ，生徒が主体的に消費生活にかかわることができるようにする。
6 次時の学習内容の確認をする。		○ 消費者の基本的な権利と責任について学習することを知らせる。 ○ 家庭での実践課題として自分の1か月分の消費生活を記入していくことを確認させる。

【参考文献】 文部科学省『中学校学習指導要領解説技術・家庭編』平成20年
佐藤文子他編著『中学校新学習指導要領の展開』2009 明治図書